

・11月16日、福島サロンで、振津かつみ医師（兵庫医科大学）を迎えてセミナー。

●会議／出張／講演／ニュース●

- ・7月6日、EIWAN 運営委員でケース会議。
- ・7月6日、今春、中学・高校に入学した移住女性の子どもたちに「進学祝い」を贈る。これは、私たちが福島サロンなどで出会った移住女性の子どもを対象とし、全国のキリスト教学校・日曜学校の子どもたちからNCC教育部に寄せられた「平和のきずな献金」から。
- ・7月11日、『EIWAN ニュース』第3号を発行。
- ・7月11日、日本NPOセンター「東日本大震災復興支援 JT NPO 応援プロジェクト中間報告会」に佐藤信行と前田圭子が出席（仙台）。
- ・7月12日、いわき市の「心ノ橋」を佐藤と裘哲一が訪問。日本人と結婚していわき市に住む中国人女性たちが自助組織「心ノ橋」を結成し、5月から継承語教室を開いている。中国語教室のあと、仮設住宅に住む中国人女性や、工場で働く技能実習生たちも集まり交流会。
- ・7月13日、須賀川市の中国人グループ「つばさ」と、白河サロンを佐藤が訪問。同行したNCC教育部主事と共に、進学祝い授与式。福島市・須賀川市・白河市の移住女性の子ども、計9人に贈呈したことになる。
- ・7月21日、郡山・いわきのフィリピン女性を前田・土田久美子が訪問。
- ・8月7日、第25回全国キリスト教学校人権教育セミナー（福岡女学院）。その分科会で佐藤が発題「外国人被災者の艱難と希望」。
- ・8月11日、『EIWAN2014年中間報告書』（8ページ）を作成し、献金を送ってくれた教会・キリスト教学校・個人に送付。
- ・8月24日、EIWAN 運営委員会。
- ・9月11日、『EIWAN ニュース』第4号を発行。
- ・9月14日、福島市国際交流協会「ゆい・結フェスタ」に参加。

- ・9月20日、My Story プロジェクト実行委員会。
- ・9月20日、福島県男女共生センター未来館フェスに水嶋いづみと土田が参加。
- ・9月21日、須賀川「つばさ」のバーベキュー交流会に佐藤と裘が参加。中国人移住女性とその家族、総勢45人が参加。
- ・9月28日、EIWAN 運営委員会、次年度（2015年）の活動計画の作成を始める。
- ・9月29日、My Story プロジェクト実行委員会。
- ・10月11日、いわき「心ノ橋」を佐藤が訪問。どのような支援ができるか協議。
- ・10月22日、日本NPOセンター「JT NPO 応援プロジェクト情報交換会」に佐藤が参加（仙台）。
- ・10月23日、日本基督教団東北教区放射能問題支援対策室「いづみ」との意見交換会に佐藤が出席（仙台）。
- ・10月26日、EIWAN ケース会議。
- ・11月5日、日本NPOセンター合同報告会「震災4年目—現地NPOが伝える復興支援の今」に佐藤が参加（東京）。
- ・11月7日、NCC在日外国人の人権委員会主催の公開セミナー（東京）。前田が講演「ふくしまで出会った女性たち—ジェンダーと多文化共生」。
- ・11月11日、『EIWAN ニュース』第5号を発行。
- ・11月22日、いわき「心ノ橋」を佐藤が訪問。この日は、地元の日本人や留学生も参加してカンフー茶道会。講師は中国人移住女性。
- ・12月3日、2015年4月に開催する「ふくしま子ども多文化フォーラム」の第1回準備会を須賀川でもつ。EIWAN から佐藤と裘が参加。
- ・12月7日、EIWAN 運営会議、今年度の活動の評価と反省を行ない、新年度の運営体制などを協議。
- ・12月27日、いわき「心ノ橋」の継承語教室を佐藤が訪問。この日は、大人も参加して書道会。講師は中国帰国者。



福島移住女性支援ネットワーク (EIWAN)

Empowerment of Immigrant Women Affiliated Network

◆発行◆2015年1月11日（隔月刊）

第6号

●外国にルーツを持つ移住女性との協働● 2014 プロジェクトを終えて、さらに

私たちの福島での活動は、震災の翌年、福島市に住むフィリピン人女性グループ、「ハワクカマイ」と出会い、彼女たちを支援することから始まった。2013年からは、福島市と白河市で日本語サロンを設けて、彼女たちの日本語識字学習をサポートした。そして2014年、海外教会からの支援、日本国内の助成金と献金を受けて、私たちの活動地域は、福島市／白河市／須賀川市／いわき市と広がった。また活動領域も、日本語識字学習の支援／労働・生活・DV・在留問題の相談と同行支援／放射能被害に関する調査・情報提供／ジェンダー問題に関する研修／移住女性の子どもに対する教育支援／移住女性とその子どもたちの保養／地元市民のサポーター養成／「やさしい日本語で防災」ワークショップ／ネットワークづくり／情報発信／移住女性「ふくしまMy Story」記録化……と格段と広がった。

たとえば、福島サロンと白河サロンでは、移住女性の具体的なニーズ、たとえば、非正規雇用の職から工場マネージャーや公的機関での通訳になりたい、介護施設など勤務先で報告書を自由に書けるようになりたいなど、一人ひとりのニーズに合わせて、日本語能力試験5級～2級の資格取得をめざし、

2014年1月から事務所をかまえ、本格的に活動して1年が終わりました。私の事務局としての目標は、①EIWANの活動を福島の方々に知っていただき、組織基盤を盤石なものにする、②地元のサポーター、ボランティアを得る、③移住女性と日常的な

2013年12月と2014年7月の試験に21人が受験し、15人がそれぞれ合格した。

また、放射能被害に関する聞き取りアンケートを実施することにより、移住女性の切実な思いと情報の少なさを知ることができた。希望者には、自宅を訪問して測定することで、線量の高い箇所を示し、生活上の留意点を伝えることができた。

月1回の交流サロンや、ワークショップ「やさしい日本語で防災」を白河市と福島市で開催するとともに、県内の移住女性コミュニティを訪問することで、9月に開催した「ふくしまフォーラム」では、第一部の映画鑑賞に90人、第二部のトーク&カフェに5カ国70人の参加者を得ることができた。

……このように書いてくると、立派な(?)報告書が出来上がるが、実際はそうではない。私たちの活動は、まだ「薄く」広がっている段階なのである。

2015年も、私たちは福島県でのこれらのプログラムを継続していきたい。震災から4年たっても、復興はなかなか進まず、被災者の思いと願いはますますかき消されようとしているからである。

●佐藤信行 (EIWAN 代表)

信頼関係を構築する——ことでした。幸いにもさまざまな助成を受け、そしてそのために常に活動を見直し、振り返り、方向を修正しながらの1年となりました。

目標はどれも道半ばですが、福島の地域の方々、

活動する多くの関係団体の皆さまに支えていただきながら、少しずつ福島に定着した活動になることを願っています。日本で、そして福島で移住女性を取

1月にあらたに始動してから、あっという間に12月になりました。すでに交流のあった方たちとより親しくなれたことはもちろんのこと、この1年で新たにお会いした方々もいました。思うように進まなかったこともありましたが、期待以上に充実したプログラムもありました。

もっとも記憶に鮮やかなものは、9月に行なった「World Women's Café」です。参加いただいた方たちのおしゃべりや真剣な話し合い、そしておいしい料理。このイベントをとおして移住女性やその子どもたちが生活していくうえでの課題を再度学ぶことができました。また、イベントでの出会いが他の活動に生かされることもありました。

1年前の今ごろは、「どうやって、EIWANの活動を続けていけるだろうか……」と、財政と支援者の確保に頭を抱えていた私たちが、海外の教会関係者を中心とした支援を得て、2014年1月に新たな事務局体制を整えプロジェクトに着手したことを覚えています。

大震災から3年を経て、今なお原発（事故）と向き合う福島で、移住女性とその家族、地域の人びとの対話が増えるようにと、日本語サロンをはじめ、リフレッシュプログラム、そしてワールド・ウィメンズカフェの実現へと進めてこれたと思います。

大きな社会的インパクトを与えるような活動ではなかったかもしれませんが、これまで出会うきっかけがなかった女性たちが、EIWANを通して、新しい出会いとつながりを経験できたのではないのでしょうか。

EIWANが事務所を構えて1年。運営委員と日本語サポーターとして活動してきました。運営委員の中で唯一の福島在住者ですが、フルタイムで仕事を

り巻く環境が良くなるように、今後手をたずさえて歩んでいきたいと思っています。

●前田圭子（EIWAN 事務局長）



2015年は、2014年に積んだ経験を糧として、活動の見直しと充実化を図っていききたいと思います。特に、より多くの地域の方々・諸団体・福島県内に住む移住女性の方々とのネットワークを構築し、文化や思想が異なる人びとがお互いに排除することなく共に生きていく社会の形成に、EIWANが貢献できるよう励んでいきたいと思っています。

●土田久美子（EIWAN 運営委員）

京都YWCAとしても、EIWANとのつながりを通して、夏（8月）に福島からフィリピン人のお母さんたちと子どもたちのリフレッシュプログラム受け入れを実現することができました。京都で外国人の相談事業に関わっているメンバーや、子どもの居場所事業に関わっているメンバーが、福島の友だちとなることができました。ありがとうございました。

●山本知恵（EIWAN 運営委員）



していることもあり、地域に活動を広げるお手伝いがあまりできなかったことを反省しています。

会の名称は「移住女性支援ネットワーク」ですが、

こちらが一方向的に支援をしているわけではなくて、フィリピンの女性たちの明るさやたくましさは私自身も力をもらっているし、同じ東アジアの国である韓国や中国の女性たちの視点に気づきをもたらすこともあります。支援をする側とされる側というよりは、同じ地域に暮らす住民同士として、一緒に活動していけたらいいなと思っています。

私はもともと、ジェンダーの問題に関心を持って

いました。ジェンダーに基づくものであれ、国籍や民族・人種に基づくものであれ、差別や偏見をなくすには、日本人側の意識をもっと変えていく必要があると思います。そういう意味で、今年は、「多様さこそが豊かさだ」という考え方を伝えていけるような活動にも力を入れていけたらと考えています。

●水嶋いづみ（EIWAN 運営委員）

2014年 EIWAN 活動日誌

◆7月～12月◆

●日本語サロンふくしま●

- ・7月6日（会場：EIWAN 福島事務所）／参加者3人（フィリピン）／サポーター1人（日本）◆日本語能力試験の直前学習
- ・7月13日／参加者3人／サポーター4人
- ・7月27日／参加者0／サポーター3人
- ・8月31日／参加者2人／サポーター2人
- ・9月21日／参加者1人／サポーター2人
- ・9月28日／参加者2人／サポーター3人
- ・10月19日／参加者1人／サポーター3人
- ・10月26日／参加者0人／サポーター1人
- ・11月16日／参加者1人／サポーター2人
- ・11月17日／参加者4人／サポーター2人
- ・11月19日／参加者3人／サポーター3人
- ・12月4日／参加者3人／サポーター2人
- ・12月7日、日本語能力試験、受験者3人
- ・12月9日／参加者2人／サポーター1人（交流サロン 手作りアクセサリー）

●日本語サロンしらかわ●

- ・7月6日／参加者3人（フィリピン）／サポーター1人（日本）◆日本語能力試験を福島市で受験
- ・7月13日（会場：マイタウン白河）／参加者4人／サポーター2人
- ・7月27日、バーベキュー交流会、家族を含めて21人
- ・9月21日／参加者5人／サポーター2人
- ・9月28日／参加者7人／サポーター1人

- ・10月12日／参加者7人／サポーター2人
- ・10月26日／参加者7人／サポーター2人
- ・11月16日／参加者5人／サポーター3人
- ・11月30日／参加者7人／サポーター2人
- ・12月7日、日本語能力試験、受験者9人
- ・12月21日、クリスマスパーティー、16人

●EIWAN主催のプログラム●

- ・7月13日、福島市と白河市に住む移住女性を対象に、EIWANが作成した放射能被害アンケート調査を始める。また希望者には、自宅周辺の放射線計測も実施。
- ・8月19～23日、「保養プログラム in 京都」。福島市のフィリピン人女性と子どもたち9人が参加。受け入れは京都YWCA。
- ・8月24日、福島サロンで「夏の交流サロン」。
- ・9月7日、福島駅近くのAOZでふくしまフォーラム「World Women's Café」。県内の移住女性と日本人が第一部と第二部あわせて150人が参加。
- ・9月20日、福島サロン、講師の金香百合さんを囲んで講座「しあわせナビ」。
- ・9月28日、白河市に続いて福島市でワークショップ「やさしい日本語で伝えよう——防災と多文化共生」（講師：花岡正義さん）。
- ・11月9日、「リフレッシュ・バスツアー」。白河—福島—仙台と向かい、工場見学と宮城県美術館のミレー展を鑑賞。参加者は、白河と福島のフィリピン女性とその家族34人。